

事務事業名	水洗便所設置費助成事業		所属部局	建設部		単位番号	2012- T505						
			所属課室	下水道課		課長名	新津 元博						
	☐ 実施計画事業		所属担当	総務管理		担当者名	矢崎 幹男						
基本政策	基本計画体系	Ⅲ	うるおいと利便性のある都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政 策		14	上下水道の整備		事業区分	05	下水	01	01	01	002	01	
施策		23	下水道等の整備			☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業						
						☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度)		法令根拠		下水道法、下水道条例								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載					事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)							
	・市民が下水道の利用を開始する際に、一定の割合で補助を行う事業					項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)							
	交付の対象: 供用開始の公示から3年以内に汲み取り便所から水洗便所に改造して、下水道に接続する工事(新築は不可)					負担金補助及び交付金 234							
	交付金額等: 1ヶ所の改造工事を行う場合(70,000円)、2ヶ所の改造を工事を行う場合(200,000円)												
						計 234							

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	24年度活動実績	・供用開始となった区域の住民を対象に加入説明会の開催等 審査、現地確認により、工事に対する補助金の交付
	25年度活動予定	・供用開始となった区域の住民を対象に加入説明会の開催等 審査、現地確認により、工事に対する補助金の交付
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	・供用開始区域内に住宅を所有し、汲み取り便所を使用している市民(供用開始3年以内)	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	・工事費が軽減され、有利に下水道に接続できる	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	・水洗化が進行し、市内の水路や河川がきれいになり、市民が快適で衛生的な生活を送ることができる	

⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
	アイウ	ア 補助金交付件数	件
⇒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
	アイウ	ア 供用開始区域内人口	人
⇒	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
	アイウ	ア 3年以内に接続した人口/加入世帯人口	%
⇒	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
	アイ	ア 市民満足度アンケート調査(水洗化率)	%

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	210	234	550	550	550			
			事業費計 (A)	千円	210	234	550	550	550	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人									
		延べ業務時間	時間									
		人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(A)+(B)			千円	210	234	550	550	550	0	0	
活動指標		アイウ	件		3.0	4.0						
対象指標		アイウ	人		29,585.0	30,899.0						
成果指標		アイウ	%		0.6	1.1						
上位成果指標		アイ	%		77.6	80.7						

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	・下水道供用開始時
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	・庶路区域の拡大と共に、水洗便所への改修工事による下水道接続者が増えてきている
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	・下水道への早期接続希望者が増えている

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	・申請に対して、補助金交付の事務処理を行うため
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	・特になし

事務事業名	水洗便所設置費助成事業	所属部	建設部	所属課	下水道課
-------	-------------	-----	-----	-----	------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 ・市内の住環境の改善により、市民の清潔で快適な生活環境の確保に結びついている
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 ・市民の清潔で快適な生活環境の確保の早期実現のため、公共性は妥当である 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 ・市民の清潔で快適な生活環境の確保を図るため、効果的な助成が必要である
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ・下水道の必要性を理解してもらい、下水道への早期接続を促す啓発活動の実施
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☐ 休止・廃止ができる ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 ・下水道への未接続世帯が増え、水洗化率に支障をきたす
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・下水道が供用開始されてから同じ条件で助成しているため、補助金の減額措置はとれない
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・この事業だけの職員体制ではない
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 ・同じ補助要件により、全ての接続可能世帯を対象とした助成制度である

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	水洗化率の向上を図るため、助成制度の推進を行う。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☒	☐	維持	☐	☐	☐	低下	☐	☐	☐
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☒	☐																		
	維持	☐	☐	☐																		
	低下	☐	☐	☐																		
(2) 改革改善案について 助成制度の活用方法を広報活動する。																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 広報誌等の掲載。	(5) 事務事業優先度評価結果																					
	成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																					